



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 2022年7月20日 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 第738号 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

安全を最優先に、 夏季輸送を無事故で乗り切ろう!



警報級の大雨、そして30℃を越す猛暑の中、各系統での安全と安定輸送業務、お疲れさまです。

連日の酷暑の影響のためか、事故・事象が多く発生しています。一方でオミクロン株が「BA.5」へ置き換わり、7月に入り感染が急拡大、第7波への対応も喫緊の課題です。

職場での安全議論は十分でしょうか？ また、熱中症対策、感染症対策は万全でしょうか？

「命」を絶対の価値基軸に、無理せず、全ての判断を「安全第一」に、問題点があれば職場活動を通じて解決を目指していきましょう！

全組合員の皆さん!

- ・「命」を最大の価値基軸に、安全・安定輸送を確保していきましょう!
- ・小さなことも見逃さず、何かあったら、本部・地本・支部・分会・近くの役員へ「報告・連絡・相談」をしよう!
- ・中央本部は地本と連携し、必要があれば、問題の解決を求め団体交渉を行います!

申1号 「第41回定期大会発言等に基づく申し入れ」を提出!

「第41回定期大会」では、代議員12名からリアルな職場実態が語られました。職場では発生する事故・事象に対する原因究明の取り組みや、日々の安全・安定輸送の確保に向け奮闘する中、様々打ち出される施策によって職場での働き方が大きく変わり、委員会や各種プロジェクト等による負担が増加している実態や、世代交代・施策の過渡期における教育・訓練・人材育成の課題があり、事故・事象の背後要因には社員の教育が不十分であるが故に、経験が積みあがらない職場実態の発言がありました。

そして現業機関においては、主たる業務を担いながら、企画業務や委員会・プロジェクト等を行っています。慣れない業務をしながらの乗務では負担が大きく、主たる業務での落とし穴が増えるのではないかと、発言もありました。具体的には、職場で進められているプロジェクト等において、作業を進めなくてはならないとの意識から乗務の合間等でも作業に追われる実態や、管理者からは超勤抑制される実態、休みの日でもLINEでの判断求められる等の発言があり、個人貸与のタブレット等の取扱いや労働時間管理については今後の大きな課題です。実際、乗務中にタブレットで乗務とは関係のない内容を閲覧している事象も発生し、安全第一の意識が薄れることを危惧します。また運転業務と企画業務の両立は体力的にも精神的にも負担が大きく、社員、組合員の努力によって安全・安定輸送が確保されているのが現状です。

また、これまでも不当労働行為と捉えられかねない事象やハラスメントが発生していましたが、未だに職場において一部管理者から不適切な言動が行われている実態も明らかになり看過できません。

中央本部は代議員発言に踏まえ、職場における課題を解消し、組合員が安心して働ける、安全第一で風通しの良い職場をつくり出すために、申し入れを行いました。

申し入れ項目

1. JR東日本およびグループ会社・パートナー会社等で発生する事故・事象に対する原因究明を行い、世代交代や各種施策等の過程における教育・訓練・人材育成等の課題を明らかにし、技術・技能継承を確実にし、安全第一の職場風土を構築すること。
2. 現業機関において企画業務や委員会・プロジェクト等を行うにあたり、個人貸与のタブレットの取扱い方法及び労働時間管理を適正に行うこと。
3. 現業機関における委員会・プロジェクト等について、複数の兼務等により個人の負担が増加している実態を把握するとともに、組合員の安全と健康の確保を行うこと。
4. 不当労働行為と捉えられかねない事象やハラスメントが未だに発生していることに対し、一部地方においては労使議論になっていることを本社として重く受け止め、組合員が安全で安心して働ける風通しの良い職場風土を確立すること。



「山と心に木を植える」を合言葉に、森づくり活動を実践する

「森びとプロジェクト」の第3回総会に参加した▼コロナ禍での感染防止策を工夫しつつ、地球温暖化に歯止めをかけるべく地道な活動をしている仲間には頭が下がる。総会で各地区の取組みが報告され、未来への土壌を創り出していると感じた。特に福島県南相馬市の「森の防潮堤づくり」の進捗状況が語られ、力強く推し進めていかなくてはと共感した▼自分自身も、これまで足尾に行き、土壌づくり・育苗・植樹・除草など体力勝負の活動を行ってきた。かつて足尾の山は、土壌が風雨で流され、石と砂だけで、緑がないハゲ山となっていた。どのように森を蘇らせるのか、本当にできるのかと疑った。当時、「木は根、根は土、土がなければ運べばいい」という言葉を聞いた。土壌を作り、育苗、植樹と果てしない計画だと感じたが、困難な道程を切り開いて植樹を終え、環境整備に入ったと聞き、目頭が熱くなった▼JR東労組も同じだ。この取組みを胸に、組織の「土壌」をつくり、組織強化・拡大に向け奮闘してこう。

(S・S)